

発刊に寄せて

東金市教育委員会教育長 廣瀬 雅哉

ふるさとを知り、ふるさとに誇りと愛情をもつことは、大切なことです。そして、自分のふるさとについて他の地域の人々に知ってもらうことはうれしいことです。

自分のふるさとのことを他の人に豊かに話を出来る人は、世界の中で信頼され尊敬される人間になります。

この『われらのふるさと 上総の東金』は、このような願いを込めて、小・中学生の皆さんに、ふるさと「東金」についてもっと知ってもらいたいと考えて作られました。東金の移り変わり、東金の各地区に残る史跡・祭りや民話、東金にかかわる歴史上の人物など、ふるさと東金の歴史が、おもしろく、分かりやすく書かれています。

小・中学生の皆さんが、郷土学習などで、もっと詳しく知りたいと思ったときにも大変役立つものになっています。

この本が、多くの皆さんに活用され、郷土に関する学習が充実し、ふるさとについての理解と愛情が一層深まることを願っています。

最後に、本書の企画、執筆、編集にご尽力いただきました東金市文化財審議会委員の吉井永氏及び近藤正氏をはじめ、種々ご協力いただきました皆様に対し、心から感謝を申し上げます。

平成十五年三月

二十才（はたち）を迎えた東金図書館

東金市立東金図書館長 田中 豊

地域の文化・情報の拠点として、重要な役割を果たしている東金図書館の新館がオープンして二十一年が経ちました。

市役所に隣接した現在の新館は、一九八一年（昭和五十六）四月オープンで、当時の蔵書数は、二万九千七百冊、年間貸出し数三万六千三百冊でしたが、二十年後の今では蔵書数十万一千冊、貸出しは二十二万六千六百冊とすばらしい伸びを見せています。

図書館は本の貸出しだけでなく、子供向けのおたのしみ会や講演会・各種講座を開いたりして、地域文化の向上に尽くしています。

また、小・中学校では二〇〇二年（平成十四）四月から、学習指導要領が変わり、週五日制が実施され、「総合的な学習の時間」が、とりいれられました。この学習は、ゆとりの中で自分で課題をみつけ、調べ、解決していくという自主性や主体性を尊重した学習です。

東金図書館では、これらの学習の手助けになるよう『われらのふるさと 上総の東金』をつくりました。

皆さんが、郷土東金の歴史について、少しでも興味を持ってくれるよう期待しています。

最後になりましたが、この本の発刊にあたられた編集委員の方々をはじめ、関係の皆様にご感謝し御礼申し上げます。

序にかえて

東金市文化財審議会委員

元東金市立東金図書館長

吉井 永

わたしたちは、みんなふるさとをもっています。

そのふるさと「上総東金」は、弓形の美しい雄大な九十九里浜の中央に位置し、面積は八十九・三四平方キロ、人口は二〇〇三年（平成十五）一月一日現在で五万九千九百十七人（男三万五十八人・女二万九千八百五十九人）、世帯数は二万一千三百九十四世帯で、平成になってからは、年々六百七十人増を示しております。

この東金に居住地を求め、移り住んだ人々が「東金市民憲章」にあるように「郷土を愛し、環境を整え」「歴史を尊び、教養を深め」「香り高い文化のまち、住みよいまち、豊かなまち」にして行こうと考えています。

わたしたちの住んでいるところ、そのまわりの山や川、たんぼや畑、そこに見られる虫・鳥・魚、みんな私たちのふるさとの風物です。そこには、お宮がありお寺があり、城あとがあり、道ばたには、歴史を語る大木や、道標、道祖神や石碑などたくさんみることが出来ます。

その一つ一つは、わたしたちの祖先が作り、大切に育て、保存して来たものです。一層大切にしていこうと思うことは非常に嬉しい事です。

最近、みなさんがこのようにふるさに親しみを感じ、ふるさとの文化財に興味を持ち、ふる

さとを知り、ふるさを愛し、更に昔から「上総の東金・上総の木更津」とうたわれた、東金をよりよい「ふるさと」にしようと、あちこちで努力されていることを力強くも思うものであります。

そこで、少しでも、皆さんの研究の手助けになればと考え、「われらのふるさと 上総の東金」と題したこの本を図書館で刊行することになりました。

考えてみますと、この図書館が出来たのは、昭和五十六年（一九八二）の三月二十五日であり、落成式をへて一般市民に公開したのは四月二十六日です。ですから、開館二十周年の記念事業として、この本が出来たことになります。

ところで、本書は小学校五・六年から中学校一・二年を対象として、その年代の方々が自由に読みとれるように考えましたので、

一、西暦は、ほぼ一六〇〇年頃（近世、近代、現代…）

二、時代は、江戸時代以降（明治、大正、昭和…）

三、年号は、慶長元年前後（天正、文禄、慶長、元和、寛永…）

といった所から、お話を始めておりますし、ルビ（ふりがな）や、写真と図（主に東金市史より引用してあります）も、つとめて数多く入れるようにしました。

この本が、皆さんに親しんでいただき、郷土史を理解し、ふるさとへの愛情を深めていただくきっかけとなれば、これ以上の喜びはありません。